

清水寺本堂 保存修理工事現場の公開

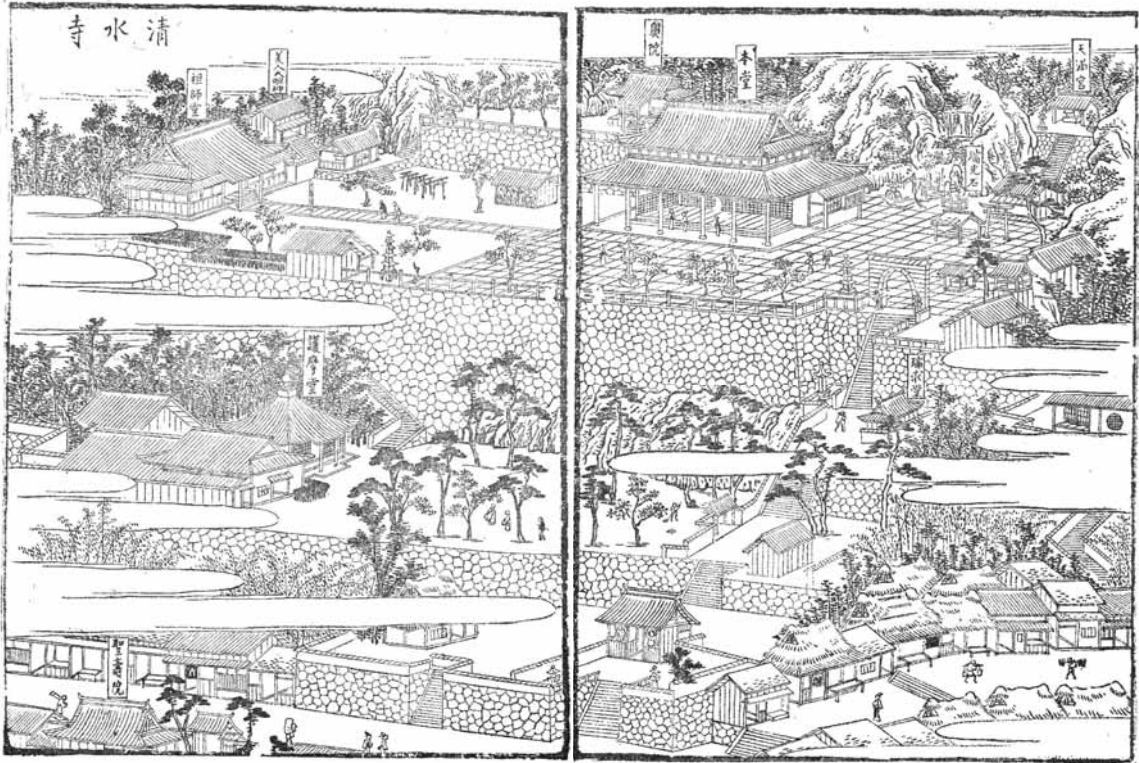
～ 県指定有形文化財 せいすいじほんどう 清水寺本堂 ～

発行日 平成 20 年 6 月 29 日

発行所 長崎市魚の町 5 - 1

長崎市文化財課

095 - 829 - 1193



文政年間（1820 年頃） 「長崎名勝圖繪」より

長崎山清水寺は、京都の清水寺の僧であった慶順によって元和 9 年（1623）に開山された真言宗（靈雲寺派）の寺院です。市内からみて東にある風頭山の山麓にあって、崇福寺や興福寺などの寺院が立ち並ぶ寺町一帯の南端に清水寺は位置しています。山麓から難壇状に石垣が積み、山の中腹に本堂があります。現本堂は本堂内陣に安置された中央宮殿の朱書きによる寛文 3 年（1663）と本堂背面にある石碑銘の寛文 8 年（1668）から、この頃に建立されたと推定されてきました。石碑の内容は隣接する崇福寺の大檀越であった中国人商人・何高材が寛文 6 年（1666）に亡くなった日本人妻の菩提を供養するために、息子の兆晋、兆有ら共に本堂を改築し寄進したとされています。

日時 平成 20 年 6 月 29 日（日） 10:00 ~ 12:00

場所 長崎市鍛冶屋町 8 - 4 3

真言宗靈雲寺派 長崎山 清水寺

主催 長崎市文化財課

講師 (財)文化財建造物保存技術協会九州支部 來本 雅之 氏

1. 文化財の名称及び特徴等（県指定有形文化財）

名称：清水寺本堂

員数：1棟

法量：木造 226.53 m²

指定年月日：昭和57年1月25日

構造形式：（修理前）

木造、平屋建、入母屋造、本瓦葺一部棧瓦葺

建物規模：

桁行三間、梁間三間、一重裳階付、南面庇付



【保存修理着手前の本堂（北側面）】

建物特徴

本堂は方三間堂で、周囲に一間通りの裳階が巡らされています。堂内は正面一間を外陣とし、内陣は梁間方向二間分に加え中央厨子を構える部分のみ背面裳階部に半間突出しています。

日本的な仏堂の造り方の中に、平垂木や黄檗天井など当時の中国様式（黄檗様式）を織り混ぜ、主要な柱等の材料に中国南部で産出する広葉杉を使用するなど他に類を見ない仏堂であり、中国文化を受容してきた長崎ならではの仏堂建築です。

2. 保存修理事業の概要

事業内容

県指定有形文化財の指定を受けて以来、小規模な修理を行ってきたものの、建立から340年余りを経過しており、基礎、軸部、小屋組、軒廻り、屋根、壁、造作組物、天井、床組、建具などにおいて、傾斜、蟻害、雨腐れや瓦ずれ、破損が見受けられ早急な修理が必要でした。また地盤の沈下や正面石垣の孕みが見受けられる状況でした。

このため平成17年度より長崎県、長崎市の補助事業として5ヶ年にわたる修理に着手しました。

事業実績（平成20年度以降、予定）

平成17年度 仮設、解体工事

平成18年度 解体、基礎、木工事

平成19年度 基礎（石垣）、木、屋根工事

平成20年度 屋根、左官、建具、電気工事

平成21年度 基礎、木、屋根、左官、建具、塗装、電気、雑工事

総事業費（予定）

444,579千円（うち、県1/2、市1/4補助）



【瓦ずれを起こした屋根】



【局所的な地盤沈下】



【虹梁上方の変位】

本堂は蟻害による部材の破損が多く確認され、地盤の不同沈下も著しく、全体に前方に傾斜していることなどから、全体修復を実施しています。

これまでの調査で、後世の改造が明らかになったことから、文政7年(1824)～明治20年(1887)頃の姿へ復原する工事を展開中です。

3. 調査による新発見

解体中に外陣黄檗天井組物斗より「寛文八年申六月」の墨書が発見されたことから、この頃に建立されたことが判明しました。また、内陣奥中央に安置された中央宮殿からは正面琵琶板裏側より延宝2年(1674)5月の墨書が発見され、大坂の大工・塗師によって製作されたことがわかりました。本堂背面の石碑に刻まれた碑文とあわせ、現在の本堂は寛文8年から延宝2年にかけて本堂の形が整えられたと推定されます。



【発見墨書】
寛文八年
申六月

この本堂については古写真や絵図などが多く存在しており、建物の改変履歴などを補完する資料となっています。この度の保存修理においては復原の根拠資料として建物の意匠や形態、高さ等、更に滅失している増築部を確定する根拠資料となっています。

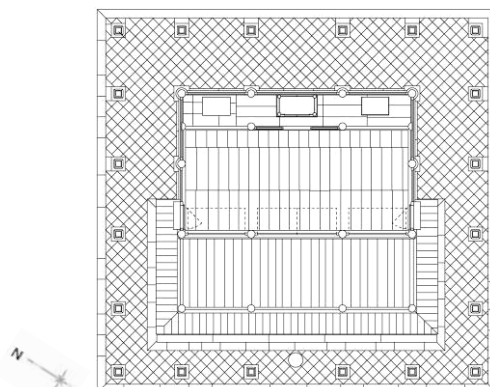


【明治中期頃の古写真（清水寺所蔵）】

本堂平面の歴史変遷

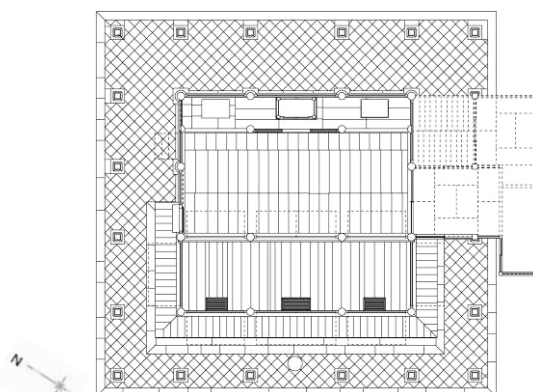
寛文8年(1668)頃

外陣は建具の無い開放空間であり、桁行三間、梁間三間の整形な密教系の平面構成。裳階部は四周吹き放しの開放空間でした。



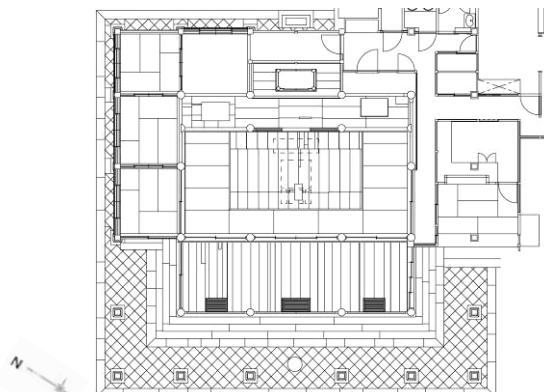
文政7年(1824)～明治20年(1887)頃

数度の増築や改造を経た、古写真に見られる形態。裳階部を一部取り込み下屋を架け室内化していました。今回の修理ではこの年代に復原を行います。



平成18年(2006)

本堂は宗教行事に適した形態に増築されていました。中央仏壇は裳階部に突出し、本来、吹き放しであった裳階部を積極的に室内化していました。



清水寺所有の指定文化財

文化財の種類	文化財の名称	指定年月日
国指定重要文化財	絹本著色不動明王三童子像	平成 2 年 6 月 29 日
県指定有形文化財	清水寺本堂	昭和 57 年 1 月 25 日
市指定有形文化財	清水寺の梵鐘	昭和 51 年 7 月 20 日
市指定有形文化財	末次船絵馬	昭和 54 年 5 月 10 日

清水寺に関する歴史年表

和暦	西暦	記 事	備 考	長崎関係
元和	9 1623	僧慶順が仮の堂宇を建てる(清水寺興成院と称する)	長崎市史・寺伝	
寛永	4 1627	改築(島原城主松倉豊後守重政、堂前に瓦敷・石欄・松植樹を施す)	長崎市史・寺伝	
	9 1632	西村忠庵「奔馬図」額奉納	像背面墨書・台座墨書	超然崇福寺創立の公許を受ける
	10 1633	5月吉日 脇仏勝重地藏王像・毘沙門天像造立される		
		7月末次氏所有の御朱印船の船頭石本庄左衛門等が大額を奉納する	長崎市史・寺伝	
	12 1635			崇福寺法堂建立
	15 1638	元石階兩脇(現稲荷社前)石灯籠1対建立	刻印銘	
	19 1642	筑前博多の商人伊藤小左衛門が京都三条釜座伊豆守藤原直次作梵鐘一口奉納	陰刻銘	
	20 1643			崇福寺梵鐘鑄造
正保	1 1644			崇福寺大雄宝殿・第一峰門建立
	3 1646	南京人文從周等本堂前の石欄を改築	長崎市史・寺伝	
慶安	2 1649	3月不動堂前水鉢 武州豊島郡江戸住人市川小右衛門奉納聖天堂前石燈籠1対建立	長崎市史・寺伝	
承応	1 1652	5月21日開山慶順没	長崎市史・寺伝	
	2 1653	寺地全部免租	長崎市史・寺伝	何高材 崇福寺釈迦三尊寄進世話人になる
	3 1654			隠元禪師興福寺に入寺
明暦	2 1656	6月7日「清水寺」額なる	刻印銘	福濟寺大雄宝殿完成
寛文	3 1663	8月吉日高島四郎兵衛本堂中央宮殿奉納?	側面朱漆書?	大火で長崎市中ほぼ焼失
	4 1664			崇福寺前身媽祖堂完成か?
	6 1666			崇福寺媽祖堂門この頃完成
	8 1668	外陣天井組物より墨書「寛文八年申六月」 鼎化唐人何高材・その子何兆普等が堂塔の造営	墨書 石碑刻印書	
	9 1669			崇福寺媽祖堂前の石畳が魏爾潜の寄進
	11 1671	何高材逝去		
	12 1672	温陵陳聯が呉泰の書「慈悲世界」額奉納	長崎市史・寺伝	
延宝	1 1673	「繫馬図」額奉納	長崎市史・寺伝	崇福寺三門福州船主林延棟らが寄進完成
	2 1674	石門外石燈籠1対建立 中央宮殿建立	石燈籠刻印 宮殿琵琶板墨書	
天和	1 1681			8月崇福寺大雄宝殿重層化魏爾潜(之琰)の寄進で完成
元禄	3 1690			この頃福濟寺大雄宝殿重層化
	5 1692	12月「曾我五郎時政仇討図」額奉納	長崎市史・寺伝	
	8 1695	9月久留米藩有馬氏十人扶持を寄進	長崎市史・寺伝	
	9 1696			この頃崇福寺第一峰門完成
	11 1698	正月 殿鐘成る 「長崎山清水寺三世法印真栄」	長崎市史・寺伝	
	14 1701			崇福寺大雄宝殿修理
宝永	1 1704	5月中央厨子内の左木蘭樹千手観音像:山崎観音寺以空僧正より寄付	長崎市史・寺伝	
享保	13 1728			崇福寺鐘鼓楼を福州の広葉杉で崇福寺棟梁荒木治右衛門組立
	15 1730	9月14日 十二天像周防岩国岩戸山妙福寺法印諦空印置	長崎市史・寺伝	
	16 1731			崇福寺護法堂上梁する
宝暦	10 1760	長賢、大師堂を本堂脇に建立	長崎市史・寺伝	
	11 1761	清国浙江仁和の王履階が「長崎山」の大額を仁王門にかける	長崎市史・寺伝	
明和	8 1771	9月四方田慈輔、石門を建てる	刻印銘	
安永	1 1772	「二王門図」「伊勢群参図」奉納	長崎市史・寺伝	
	4 1775	内陣床板墨書	床板裏面墨書	崇福寺大雄宝殿修理
	8 1779	4月「慈悲世界」額修理	墨書	
	9 1780	6月「南無阿彌陀仏」「清水寺」額修理	墨書	
享和	2 1802	本堂前面石燈籠北側建立	刻印銘	
文政	2 1819	2月唐船一艘につき銀百目宛十艘限り寄付	長崎市史・寺伝	
	5 1822	久留米藩有馬氏 聖天堂(12坪3間×4間・三方下屋付・廊下5間余り)建立	長崎市史・寺伝	
	7 1824	3月3日より晴天2日間本尊千手観音菩薩像を開帳 本堂前面石造五重塔脇花見塚建立	長崎市史・寺伝	
	11 1828	8月9日大風で松・椎5本吹き倒れる	長崎市史・寺伝	崇福寺大門倒壊
天保	4 1833	本堂背面石燈籠1基大工町田中徳松他12名	刻印銘	
	14 1843	10月24日鍛冶屋町より出火、聖天堂・廊下・庫裡、接待所、二王門が焼失	長崎市史・寺伝	
	4 1851	聖天堂・庫裡等再建てる・6月「俳句の額」	長崎市史・寺伝	
安政	6 1859	幕府よりの3貫目受領停止	長崎市史・寺伝	
文久	1 1861	本堂修理を示す墨書多数(万延二年~文久三年まで)	墨書	
元治	1 1864	本堂前面石燈籠中央建立 3月御開帳	長崎市史・寺伝	
明治	4 1871	廃藩置県により久留米藩からの10人扶持停止	長崎市史・寺伝	
	6 1873	6月法相宗の兼修を止め、古義派真言宗となる	長崎市史・寺伝	
	10 1877	八坂神社の前身宝樹山現応寺の鐘樓移築する	長崎市史・寺伝	崇福寺諸堂修理完成
	20 1887	この頃まで外陣板間 これ以後墨敷	長崎市史・寺伝	
	42 1909	1月京都清水寺を離れ、東京本郷靈雲寺の末寺となる	長崎市史・寺伝	
大正	13 1924	中央厨子修理・御開帳	側面朱漆書	
昭和	57 1982	長崎大水害 本堂裏山崩壊一部破損 1月25日 長崎県指定有形文化財に指定される	証書	
平成	18 2006	1月25日 本堂保存修理工事着手		